

令和7年度
シラバス

愛媛県立宇和島南中等教育学校(前期課程用)

| | | | | | | | |
|----|----|----|---|---|-----|-----|----|
| 教科 | 社会 | 学年 | 3 | 年 | 時間数 | 140 | 時間 |
|----|----|----|---|---|-----|-----|----|

| | | | |
|------|-------------------|------|-------------|
| 教科書名 | 新しい社会歴史、中学社会公民的分野 | 出版社名 | 東京書籍、日本文教出版 |
|------|-------------------|------|-------------|

| 学期 | 月 | 指導計画 | | 評価の観点 | | | 授業の概要・学習の到達目標・評価の観点等 |
|-------------------------------|--|---|--|-------|---|----|--|
| | | 単元 | 内容 | 知 | 思 | 主 | |
| 一 学期 | 4 | (歴史的分野)第5章 開国と近代日本の歩み | 1 新政府の成立 2 明治維新の三大改革 3 富国強兵と文明開化 4 近代的な国際関係 | ◎ | ○ | ○ | 授業の概要 歴史的な分野では、近代、現代の日本の歴史を学びます。わが国の先人たちが、どのように苦勞して、今の豊かな日本をつくり上げたのかを様々な資料を参考にしながら、学習します。 明治維新から、日清日露の戦争による独立の維持、第一次世界大戦後の大国としての動き、大東亜戦争に至るまでの道のり、そして敗戦にいたるまでの歴史の流れの中から把握します。 公民的分野では、現代社会の問題点と自己のあり方について学びます。基本的人権や政治機構についての基本的事項を身に付けます。また、政治や経済、国際社会の基本的な学習から、身近なニュースと公民的分野の学習から学ぶ、対立と合意、効率と公正の考え方をういた学習まで、さまざまな資料を読み取りながら学習します。 |
| | | 第3節 明治維新 | 5 国境と領土の確定 6 領土をめぐる問題の背景 7 自由民権運動の高まり 8 立憲制国家の成立 | ◎ | ○ | ○ | |
| | | 第4節 近代産業の発展と近代文化の形成 | 1 欧米列強の侵略と条約改正 2 日清戦争 3 日露戦争 4 韓国と中国 | ○ | ○ | ◎ | |
| | | 第6章 二度の世界大戦と日本 | 5 産業革命の進展 6 近代文化の形成 1 第一次世界大戦 2 ロシア革命 | ○ | ◎ | ○ | |
| | 5 | 第1節 第一次世界大戦と日本 第2節 大正デモクラシーの時代 | 3 国際協調の高まり 4 アジアの民族運動 1 大正デモクラシーと政党内閣の成立 2 広がる社会運動と男子普通選挙 | ○ | ○ | ◎ | |
| | | 中間考査(5/13~5/14) | | ◎ | ◎ | | |
| | 6 | 第3節 世界恐慌と日本の中国侵略 | 3 新しい文化と生活 1 世界恐慌とブロック経済 2 欧米の情勢とファシズム 3 昭和恐慌と政党内閣の危機 | ◎ | ○ | ○ | |
| 第4節 第二次世界大戦と日本 | | 4 満州事変と軍部の台頭 5 日中戦争と戦時体制 1 第二次世界大戦の始まり 2 太平洋戦争の開始 | ○ | ○ | ◎ | | |
| 第7章 現代の日本と私たち 第1節 戦後日本の出発 | | 3 戦時下の人々 4 戦争の終結 1 占領下の日本 2 民主化と日本国憲法 | ○ | ○ | ◎ | | |
| 7 | 第2節 冷戦と日本の発展 | 1 冷戦の開始と植民地の解放 2 独立の回復と55年体制 3 緊張緩和と日本外交 4 日本の高度経済成長 5 マスメディアと現代の文化 | ◎ | ○ | ○ | | |
| | 期末考査(6/25~7/1) | | ◎ | ◎ | | | |
| | 第3節 新たな時代の日本と世界 | 1 冷戦後の国際社会 2 冷戦後の日本 3 持続可能な社会に向けて | ○ | ○ | ◎ | | |
| 夏 季 | 8 | (公民的分野)第1編 私たちと現代社会 第1節 私たちが生きる現代社会の特色 | 1 少子高齢化の社会で生きる私たち 2 情報化で変わる社会と私たち 3 グローバル化する世界で生きる私たち 4 持続可能な社会と私たち | ○ | ○ | ◎ | ・明治政府がどのような国をつくろうとしていたのか、政策から説明することができる。 ・大日本帝国憲法の制定や民権運動を通じて日本の民主主義の発展について理解できる。 ・日清、日露戦争勃発から第一次世界大戦を経て、日本が国際的な地位を確立していった経緯を理解できる。 ・大東亜戦争にいたる経緯を理解できる。 ・民主主義の意義について理解できる。 ・基本的人権の大切さが理解できる。 ・三権分立と日本の政治機構の基本的関係について理解できる。 ・経済活動の意義や市場経済の基本的な考え方について説明できる。 ・国家間の相互の主権の尊重と協力及び国際機構などについて理解できる。 |
| | | 夏季休業日(7/19~8/24) | | | | | |
| 二 学期 | 9 | 第2節 現代社会の文化と私たち | 1 現代社会における文化 2 日本の伝統文化の特徴と多様性 3 世界のなかの日本の文化 | ○ | ○ | ◎ | 知識・技能 我が国の国土と歴史、現代の政治、経済、国際関係等に関して理解するとともに、調査や諸資料から様々な情報を効果的に調べまとめる技能を身に付けている。 |
| | | 第3節 現代社会の見方・考え方 | 1 きまりの意義 2 「対立」と「合意」 3 効率と公正 4 きまりを守る責任とその評価 | ○ | ◎ | ○ | |
| | | 第2編 私たちの生活と政治 | 1 政治と民主主義 2 法に基づく政治と憲法 3 日本国憲法と基本原則 4 日本国憲法と国民主権 | ◎ | ○ | ○ | |
| | 10 | 第2節 日本国憲法と基本的人権 | 1 人権思想の歩み 2 自由に生きる権利 3 等しく生きる権利 4 差別のない世界へ 5 人間らしい生活を営む権利 6 人権の保障を確実にするために 7 社会の変化と人権保障(1) 8 社会の変化と人権保障(2) 9 国際的な人権の保障 10 公共の福祉と国民の義務 | ◎ | ◎ | ○ | |
| | | 第3節 日本の平和主義 | 1 日本国憲法の平和主義 2 日米安全保障条約と日本の国際貢献 | ◎ | ○ | ○ | |
| | 11 | 中間考査(10/7~10/8) | | ◎ | ◎ | | |
| | | 第2章 国民主権と日本の政治 | 【チャレンジ公民】道路の拡張計画について考えよう 1 民主政治のしくみ 2 選挙の意義としくみ 3 国民と政治をつなぐ政党 4 政治参加と世論 | ○ | ◎ | ○ | |
| 第1節 民主政治と政治参加 第2節 国の政治のしくみ | | 1 国会の地位としくみ 2 国会の仕事 3 内閣のしくみと議院内閣制 4 行政権の拡大と国民の生活 5 法を守る裁判所 6 裁判のしくみと人権の尊重 7 私たちの司法と裁判員制度 8 三権分立と政治参加 | ◎ | ○ | ◎ | | |
| 第3節 暮らしを支える地方自治 | 1 私たちの暮らしと地方自治 2 地方公共団体のしくみ 3 地方自治と国の関係 4 地方自治と私たち 【チャレンジ公民】一票の格差の問題を考えよう -ディベート- | ○ | ◎ | ○ | | | |
| 12 | 第3編 私たちの生活と経済 第1節 消費生活と経済のしくみ | 1 経済のしくみ 2 経済活動の意義 3 私たちの消費生活 4 消費者の権利と自立を支える政府のはたらき 5 ものの流れと情報の流れ 6 市場のしくみと価格の決まり方 | ◎ | ○ | ○ | | |
| | 期末考査(11/26~12/2) | | ◎ | ◎ | | | |
| | 第2節 生産の場としての企業 | 1 生産活動とそのしくみ 2 株式会社のしくみと企業の社会的責任 3 企業の競争と独占の問題 4 グローバル化する経済と現代の企業 5 企業活動と景気の変動 6 働く意味と労働者を支えるしくみ | ○ | ○ | ◎ | | |
| 冬 季 | 1 | 冬季休業日(12/20~1/7) | | | | | |
| 三 学期 | 1 | 第3節 金融のしくみとお金の価値 | 7 変化する雇用のかたち 8 女性の働く環境と高齢者雇用 1 金融のしくみ 2 日本銀行と金融政策 3 金融のグローバル化と為替相場 | ○ | ◎ | ○ | 評価方法 学習の状況は、「知識・技能」「思考・判断・表現」「主体的に学習に取り組む態度」の3つの観点で評価します。具体的には、おもに「出席」、「授業態度・取り組み方」、「定期考査」、「小テスト」、「提出物(レポートやノート)」により評価します。また、学年の成績は、上記の観点から評価した各学期の成績の平均とし、5段階法でも評定します。 |
| | | 第4節 財政と国民の福祉 | 1 財政のはたらき 2 国の収入を支える税と国債 3 社会保障のしくみ 4 少子高齢化社会における福祉の充実と財源 5 環境保全の担い手としての政府 【チャレンジ公民】社会保障のあり方について考えよう | ◎ | ○ | ○ | |
| | 2 | 第4編 私たちと国際社会 第1節 国家と国際社会 | 1 国際社会と持続可能性 2 国家と国際関係 3 日本の領土をめぐる問題 4 国際連合の目的とはたらき 5 グローバル化と地域統合 6 世界の様々な文化や宗教 | ◎ | ○ | ○ | |
| | | 学年末考査(2/20~2/27) | | ◎ | ◎ | | |
| 3 | 第2節 国際社会の課題と私たちの取り組み | 1 現代の戦争と平和 2 世界の軍縮と日本の役割 3 日本の平和主義と国際貢献 4 発展途上国の現状と多様化する世界 5 限りある資源とエネルギー 6 地球規模の環境問題と国際協力 7 持続可能な社会をめざして | ◎ | ○ | ○ | 備考 | |
| | | 【チャレンジ公民】地球温暖化に対する政策について考えよう 1 テーマ設定 2 資料収集と読み取り 3 考察と構想 4 まとめと評価 | ○ | ○ | ◎ | | |

令和7年度
シラバス

愛媛県立宇和島南中等教育学校(後期課程用)

| | | | | | | | | | | |
|----|------|----|------|----|----|----|----|-----|---|----|
| 教科 | 地理歴史 | 科目 | 歴史総合 | 学年 | 4年 | 類型 | 共通 | 単位数 | 2 | 単位 |
|----|------|----|------|----|----|----|----|-----|---|----|

| | | | |
|------|-----------|------|-------|
| 教科書名 | 高等学校 歴史総合 | 出版社名 | 第一学習社 |
|------|-----------|------|-------|

| 学期 | 月 | 指導計画 | | 評価の観点 | | | 授業の概要・学習の到達目標・評価の観点等 | |
|-------------|-------------------------------------|------------------------------------|--|---------------------|---|---|--|---|
| | | 単元 | 内容 | 知 | 思 | 主 | | |
| 一 学 期 | 4 | 第1部 歴史の扉 | ①歴史と私たち ②歴史の特質と資料 | ○ | ○ | ○ | <p>授業の概要</p> <p>社会的事象の歴史的な見方・考え方を働かせ、課題を追究したり、解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を育成することを目指します。</p> <p>学習の到達目標</p> <p>・近現代の歴史の変化に関わる諸事象について、世界とそれの中の日本を広く相互的な視野から捉え、現代的な諸課題の形成に関わる近現代の歴史を理解するとともに、諸資料から歴史に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けるようにする。 ・近現代の歴史の変化に関わる事象の意味や意義、特色などを、時期や年代、推移、比較、相互の関連や現在とのつながりなどに着目して、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、歴史に見られる課題を把握し解決を視野に入れて構想したりする力や、考察、構想したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりする力を養う。 ・近現代の歴史の変化に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に追究、解決しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚、我が国の歴史に対する愛情、他国や他国の文化を尊重することの大切さについての自覚などを深める。</p> <p>評価の観点</p> <p>知識・技能</p> <p>近現代の歴史の変化に関わる諸事象について、世界とそれの中の日本を広く相互的な視野から捉え、現代的な諸課題の形成に関わる近現代の歴史を理解するとともに、諸資料から歴史に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けている。</p> <p>思考・判断・表現</p> <p>近現代の歴史の変化に関わる事象の意味や意義、特色などを、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、歴史に見られる課題を把握し解決を視野に入れて構想したりする力や、考察、構想したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりする力を身に付けている。</p> <p>主体的に学習に取り組む態度</p> <p>近現代の歴史の変化に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に追究、解決しようとする態度や、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚、我が国の歴史に対する愛情、他国や他国の文化を尊重することの大切さについての自覚などを身に付けている。</p> <p>評価方法</p> <p>学習の状況は、「知識・技能」、「思考・判断・表現」、「主体的に学習に取り組む態度」の3つの観点で評価します。具体的には、主に「出席」、「授業態度・取り組み方」、「定期考査」、「小テスト等」、「提出物(レポートやノート)」により評価します。また、学年の成績は、上記の観点から評価した各学期の成績の平均とし、5段階法でも評定します。</p> <p>備考</p> | |
| | | 第2部 近現代の世界と日本 第1章 近代化と私たち | 1 18世紀の東アジアの政治と国際秩序 2 18世紀の東アジアの経済と社会 | ○ | ○ | ○ | | |
| | | 第1節 18世紀のアジアの繁栄 | 1 国際商業の覇権争いと大西洋三角貿易 2 農業社会から工業社会へー産業革命 | ○ | ○ | ○ | | |
| | | 第2節 産業革命と市民革命 | 3 アメリカ独立革命 4 フランス革命 | ○ | ○ | ○ | | |
| | 5 | 中間考査(5/13~5/16) | 5 イギリスに挑戦したナポレオン 6 大西洋をこえて広がった革命 | ○ | ○ | ○ | | |
| | | 第3節 イギリスの繁栄と国民国家の拡大 | 1 イギリスの繁栄 2 後発国による「上かなの近代化」 | ○ | ○ | ○ | | |
| | 6 | 第4節 アジア諸国の変貌と日本の開国 | 3 ロシアの近代化と南下政策 4 アメリカ合衆国の膨張 | ○ | ○ | ○ | | |
| | | | 1 オスマン帝国の衰退と西アジア 2 南アジアと東南アジアの植民地化 | ○ | ○ | ○ | | |
| | | 3 東アジアの動揺 4 東アジアの情勢と改革 | ○ | ○ | ○ | | | |
| | 7 | 第5節 帝国主義の発展 | 5 明治初期日本の外交と東アジアの国際秩序 6 日本の立憲国家への道のり | ○ | ○ | ○ | | |
| | 二 学 期 | 7 | 第5節 帝国主義の発展 | 1 帝国主義の時代 2 列強の世界政策 | ○ | ○ | | ○ |
| | | | 3 日清戦争と中国分割 | ○ | ○ | ○ | | |
| 8 | | 夏季休業日(7/19~8/24) | | | | | | |
| | | 第2章 国際秩序の変化や大衆化と私たち | 4 日露戦争とアジア | ○ | ○ | ○ | | |
| 9 | | 第1節 第一次世界大戦と大衆社会 | 5 日本の工業化と社会運動の高揚 6 日本の帝国主義と東アジア | ○ | ○ | ○ | | |
| | | | 1 第一次世界大戦 2 ロシア革命とソ連の成立 | ○ | ○ | ○ | | |
| | | 3 ヴェルサイユ=ワシントン体制 4 アジア諸国の独立運動 | ○ | ○ | ○ | | | |
| 10 | | 中間考査5年(9/30~10/3) | 5 東アジアの民族運動と日本 6 アメリカの大衆社会 | ○ | ○ | ○ | | |
| | | 中間考査4・6年(10/7~10/10) | 7 大正デモクラシーと日本社会の変化 | ○ | ○ | ○ | | |
| | | 第2節 経済危機と第二次世界大戦 | 1 世界恐慌 2 ファシズム・軍部の台頭 | ○ | ○ | ○ | | |
| | | 3 ファシズムの対外侵略と国際秩序の変化 | ○ | ○ | ○ | | | |
| 11 | | 第3節 第二次世界大戦の戦後処理と新たな国際秩序の形成 | 4 日中戦争の開始と戦時体制下の日本 5 第二次世界大戦の開始 | ○ | ○ | ○ | | |
| | 6 第二次世界大戦の終結 | | ○ | ○ | ○ | | | |
| | 1 国際連合と国際経済体制 2 冷戦の開始とアジアへの波及 | ○ | ○ | ○ | | | | |
| 12 | 第3章 グローバル化と私たち | 3 敗戦国の戦後改革と日本国憲法の制定 4 平和条約と日本の独立回復 | ○ | ○ | ○ | | | |
| | 第1節 冷戦と脱植民地化・第三世界の台頭 | グローバル化への問い | ○ | ○ | ○ | | | |
| | 1 アジア諸国の独立と中東戦争 2 アフリカ諸国の独立と第三世界の台頭 | ○ | ○ | ○ | | | | |
| 三 学 期 | 1 | 3 核戦争の危機から核軍縮へ | ○ | ○ | ○ | | | |
| | | 4 西側諸国の多極化と日本の動向 | ○ | ○ | ○ | | | |
| | 2 | 第2節 国際秩序の変容と21世紀の世界 | 5 日本の高度経済成長とアジアとの関係回復 | ○ | ○ | ○ | | |
| | | 2 東南アジア・東アジアの経済成長 | ○ | ○ | ○ | | | |
| | 3 | 学年末考査4・5年(2/20~2/27) | 3 冷戦の終結とソ連の解体 4 地域紛争の頻発とアメリカの動揺 | ○ | ○ | ○ | | |
| | | 現代な諸課題の形成と展望 | 5 グローバル化と地域統合の動き 6 情報通信技術の発展と環境問題への対応 | ○ | ○ | ○ | | |
| | | 「探究」活動に取り組んでみよう | ○ | ○ | ○ | | | |

令和7年度
シラバス

愛媛県立宇和島南中等教育学校(後期課程用)

| | | | | | | | | | | |
|----|----|----|----|----|----|----|----|-----|---|----|
| 教科 | 公民 | 科目 | 公共 | 学年 | 4年 | 類型 | 共通 | 単位数 | 2 | 単位 |
|----|----|----|----|----|----|----|----|-----|---|----|

| | | | |
|------|----|------|--------|
| 教科書名 | 公共 | 出版社名 | 東京法令出版 |
|------|----|------|--------|

| 学期 | 月 | 指導計画 | | 評価の観点 | | | 授業の概要・学習の到達目標・評価の観点等 | |
|---------------------|-------------------|---------------------------------------|---|-------|---|---|---|--|
| | | 単元 | 内容 | 知 | 思 | 主 | | |
| 一 学 期 | 4 | 第1編「公共の扉をひらくために」 | 「公共」の見取り図 | ○ | ○ | ◎ | 授業の概要 人間と社会の在り方についての見方・考え方を働かせ、現代の倫理、社会、文化、政治、法、経済、国際関係などに関わる諸課題を追究したり解決したりする活動を通して、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を育成することを目指します。 | |
| | | 第1章「公共的な空間をつくる私たち」 | ①社会のなかの私たち ②日本の文化と社会 ③青年期とは ④自己形成の課題 ⑤ライフ・キャリアの形成 ⑥社会の多様性 ⑦宗教と文化 | ○ | ◎ | | | |
| | | 第2章「公共的な空間における人間としてのあり方・生き方」 | ①幸福とは ②自由とは ③正義とは ④公正とは | ○ | ◎ | ○ | | |
| | | 第3章「公共的な空間における基本原理と日本国憲法」 | ①人間の尊厳と平等 ②民主政治と国民主権 | ◎ | ○ | | | |
| | 5 | 中間考査(5/13～5/16) | | | ◎ | ○ | | |
| | | | ③消極的自由と公共の福祉 ④積極的自由と義務 ⑤法の支配と人権保障 ⑥平和主義 | ◎ | ○ | | | |
| | | 第2編「よりよい社会の形成に参画するために」 | 「政治」の見取り図 ①法の機能と限界 ②国会の運営と権限 ③内閣と行政の民主化 ④世界の政治体制 ⑤裁判所と人権保障 ⑥私たちと裁判 | ◎ | ○ | ◎ | | |
| 6 | 第1章「日本の政治機構と政治参加」 | | ◎ | ○ | | | | |
| | 期末考査(6/25～7/1) | | ◎ | ○ | | | | |
| 夏 季 | 7 | | ⑦地方自治のしくみ ⑧選挙のしくみと課題 ⑨政党政治 ⑩国民と政治参加 | ◎ | ○ | | ・考察・選択・判断するための手掛かりとなる概念や理論について理解し、諸資料から、必要な情報を調べまとめることができる。 ・現実社会の諸課題の解決に向けて、事実を基に多面的・多角的に考察し公正に判断したり、構想したことを議論したりすることができる。 ・各国が相互に主権を尊重し、各国民が協力し合うことの大切さについて自覚した上で、よりよい社会の実現を視野に、現代の諸課題を主体的に解決しようとする事ができる。 | |
| | | 夏季休業日(7/19～8/24) | | | | | | |
| | 8 | | | | | | | |
| 二 学 期 | 9 | 第2章「経済のしくみ」 | 「経済」の見取り図 ①経済活動と私たちの生活 ②市場のしくみ ③市場の失敗 ④現代の企業 ⑤国民所得 ⑥景気変動と物価の動き ⑦財政の役割 ⑧財政の課題 ⑨金融のしくみと働き ⑩中央銀行と金融の自由化 | ◎ | ○ | ◎ | 評価の観点 知識・技能 考察・選択・判断するための手掛かりとなる概念や理論について理解している。また、諸資料から、必要な情報を調べまとめている。 | |
| | | 中間考査5年(9/30～10/3) | | ◎ | ○ | | | |
| | | 中間考査4・6年(10/7～10/10) | | ◎ | ◎ | ○ | | |
| | | 第3章「変化する日本経済」 | ①戦後復興から高度経済成長へ ②安定成長からバブル経済へ ③バブル後の日本経済 ④日本の中小企業 ⑤日本の農業問題 ⑥公害の防止と環境保全 ⑦エネルギーと循環型社会 | ◎ | ○ | | | |
| | 10 | 第4章「豊かな生活の実現」 | ①私たちの生活と契約 ②消費者主権 ③労働者の権利 ④現代の雇用・労働問題 | ◎ | ○ | | | 思考・判断・表現 現実社会の諸課題の解決に向けて、事実を基に多面的・多角的に考察し、公正に判断し、構想したことを議論している。 |
| | | 期末考査(11/26～12/2) | | ◎ | ○ | | | |
| | | 第5章「国際政治のしくみと動向」 | 「国際」の見取り図 ①国家主権と国際法 ②人権保障の広がり | ◎ | ○ | | | |
| 冬 季 | 1 | 冬季休業日(12/20～1/7) | | | | | 主体的に学習に取り組む態度 よりよい社会の実現を視野に、現代の諸課題を主体的に解決しようとしている。 | |
| | | | ③国際連合の役割と課題 ④第二次世界大戦後の国際社会 ⑤冷戦終結後の国際社会 ⑥人種・民族・難民問題 ⑦核兵器の廃絶と国際平和 ⑧日本の安全保障の現状 | ◎ | ○ | | | |
| | 1 | 第6章「国際経済のしくみと動向」 | ①貿易と国際分業 ②外国為替のしくみと国際収支 ③戦後国際経済の枠組みと変化 ④グローバル化する経済 | ◎ | ◎ | ○ | | |
| 三 学 期 | 2 | 第7章「国際社会の現状と課題」 | ①地域統合の進展 ②南北問題 | ◎ | ○ | | 評価方法 学習の状況は、「知識・技能」、「思考・判断・表現」、「主体的に学習に取り組む態度」の3つの観点で評価します。具体的には、主に「出席」、「授業態度・取り組み方」、「定期考査」、「小テスト等」、「提出物(レポートやノート)」により評価します。また、学年の成績は、上記の観点から評価した各学期の成績の平均とし、5段階法でも評価します。 | |
| | | 学年末考査4・5年(2/20～2/27) | | ◎ | ○ | | | |
| | 3 | | ③新興市場国 ④地球規模の諸課題 ⑤地球環境問題 ⑥日本の役割 | ◎ | ◎ | ○ | | 備考 |
| 第3編「持続可能な社会をつくるために」 | | ①民主主義を考えよう ②日本の格差問題 ③科学技術の発展 ④外国人との共生 | | ◎ | ○ | | | |

令和7年度
シラバス

愛媛県立宇和島南中等教育学校(後期課程用)

| | | | | | | | | | | |
|----|------|----|------|----|----|----|-----|-----|---|----|
| 教科 | 地理歴史 | 科目 | 地理総合 | 学年 | 5年 | 類型 | 文科系 | 単位数 | 2 | 単位 |
|----|------|----|------|----|----|----|-----|-----|---|----|

| | | | |
|------|---------------------|------|--------------|
| 教科書名 | 高等学校 新地理総合 高等地図帳 | 出版社名 | 帝国書院 二宮書店 |
|------|---------------------|------|--------------|

| 学期 | 月 | 指導計画 | | 評価の観点 | | | 授業の概要・学習の到達目標・評価の観点等 |
|-------------|----------------------|---|--------------------------------|-------|---|--|--|
| | | 単元 | 内容 | 知 | 思 | 主 | |
| 一 学 期 | 4 | 第1部 地図でとらえる現代世界 | 1 地球上の位置と時差 | ○ | ○ | ○ | 授 業 の 概 要 社会的事象の地理的な見方・考え方を働かせ、課題を追究したり、解決したりする活動を通して広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を育成することを目指します。 |
| | | 第1章 地図と地理情報システム | 2 地図の役割と種類 | ○ | ○ | ○ | |
| | | 第2章 結びつきを深める現代世界 | 1 現代世界の国家と領域 2 グローバル化する世界 | ○ | ○ | ○ | |
| | | 中間考査(5/13~5/16) | | ○ | ○ | ○ | |
| | 5 | 第2部 国際理解と国際協力 | 序説 生活文化の多様性と国際理解 | ○ | ○ | ○ | |
| | | 第1章 生活文化の多様性と国際理解 | 1 世界の地形と人々の生活 2 世界の気候と人々の生活 | ○ | ○ | ○ | |
| | 6 | 期末考査(6/25~7/1) | | ○ | ○ | ○ | |
| | | | 3 世界の言語・宗教と人々の生活文化 | ○ | ○ | ○ | |
| | 7 | 夏季休業日(7/19~8/24) | | | | | |
| | | | 4 歴史的背景と人々の生活 5 世界の産業と人々の生活 | ○ | ○ | ○ | |
| | 8 | 中間考査5年(9/30~10/3) | | ○ | ○ | ○ | |
| | | 中間考査4・6年(10/7~10/10) | | ○ | ○ | ○ | |
| 9 | 第2章 地球的課題と国際協力 | 1 複雑に絡み合う地球的課題 2 地球環境問題 3 資源エネルギー問題 4 人口問題 5 食糧問題 6 都市居住問題 | ○ | ○ | ○ | | |
| | 期末考査(11/26~12/2) | | ○ | ○ | ○ | | |
| 10 | 第3部 持続可能な地域づくりと私たち | 1 日本の自然環境 | ○ | ○ | ○ | | |
| | 第1章 自然災害と防災 | | ○ | ○ | ○ | | |
| 11 | 冬季休業日(12/20~1/7) | | | | | | |
| | | 2 地震・津波と防災 3 火山災害と防災 4 気象災害と防災 5 自然災害への備え | ○ | ○ | ○ | | |
| 12 | 学年末考査4・5年(2/20~2/27) | | ○ | ○ | ○ | | |
| | 第2章 生活圏の調査と地域の展望 | 1 生活圏の調査と地域の展望 | ○ | ○ | ○ | | |
| 三 学 期 | 1 | | | ○ | ○ | 評 価 方 法 学習の状況は、「知識・技能」、「思考・判断・表現」、「主体的に学習に取り組む態度」の3つの観点で評価します。具体的には、主に「出席」、「授業態度・取り組み方」、「定期考査」、「課題プリント(小テスト等)」、「提出物」により評価します。また、学年の成績は、上記の観点から評価した各学期の成績の平均とし、5段階法でも評価します。 | |
| | | | | ○ | ○ | | |
| 2 | | | | ○ | ○ | | |
| | | | | ○ | ○ | | |
| 3 | | | | ○ | ○ | | |
| | | | | ○ | ○ | | |

令和7年度
シラバス

愛媛県立宇和島南中等教育学校(後期課程用)

| | | | | | | | | | | |
|----|------|----|------|----|----|----|-----|-----|---|----|
| 教科 | 地理歴史 | 科目 | 地理総合 | 学年 | 5年 | 類型 | 理科系 | 単位数 | 2 | 単位 |
|----|------|----|------|----|----|----|-----|-----|---|----|

| | | | |
|------|---------------------|------|--------------|
| 教科書名 | 高等学校 新地理総合 高等地図帳 | 出版社名 | 帝国書院 二宮書店 |
|------|---------------------|------|--------------|

| 学期 | 月 | 指導計画 | | 評価の観点 | | | 授業の概要・学習の到達目標・評価の観点等 |
|-------------|--------------------|---|--------------------------------|-------|---|---|--|
| | | 単元 | 内容 | 知 | 思 | 主 | |
| 一 学 期 | 4 | 第1部 地図でとらえる現代世界 | 1 地球上の位置と時差 | ○ | ○ | ○ | 授 業 の 概 要 社会的事象の地理的な見方・考え方を働かせ、課題を追究したり、解決したりする活動を通して広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を育成することを目指します。 |
| | | 第1章 地図と地理情報システム | 2 地図の役割と種類 | ○ | ○ | ○ | |
| | | 第2章 結びつきを深める現代世界 | 1 現代世界の国家と領域 2 グローバル化する世界 | ○ | ○ | ○ | |
| | | 中間考査(5/13～5/16) | | ○ | ○ | ○ | |
| | 5 | 第2部 国際理解と国際協力 | 序説 生活文化の多様性と国際理解 | ○ | ○ | ○ | |
| | | 第1章 生活文化の多様性と国際理解 | 1 世界の地形と人々の生活 2 世界の気候と人々の生活 | ○ | ○ | ○ | |
| | 6 | 期末考査(6/25～7/1) | 3 世界の言語・宗教と人々の生活文化 | ○ | ○ | ○ | |
| | | | | ○ | ○ | ○ | |
| | 7 | 夏季休業日(7/19～8/24) | | ○ | ○ | ○ | |
| | | | | ○ | ○ | ○ | |
| | 二 学 期 | 8 | 4 歴史的背景と人々の生活 | ○ | ○ | ○ | |
| | | | | ○ | ○ | ○ | |
| 9 | | 5 世界の産業と人々の生活 | ○ | ○ | ○ | | |
| | | | ○ | ○ | ○ | | |
| 10 | | 中間考査5年(9/30～10/3) | | ○ | ○ | ○ | |
| | | 中間考査4・6年(10/7～10/10) | | ○ | ○ | ○ | |
| 11 | 第2章 地球的課題と国際協力 | 1 複雑に絡み合う地球的課題 2 地球環境問題 3 資源エネルギー問題 4 人口問題 5 食糧問題 6 都市居住問題 | ○ | ○ | ○ | | |
| | 期末考査(11/26～12/2) | | ○ | ○ | ○ | | |
| | 第3部 持続可能な地域づくりと私たち | 1 日本の自然環境 | ○ | ○ | ○ | | |
| | 第1章 自然災害と防災 | | ○ | ○ | ○ | | |
| 三 学 期 | 1 | 2 地震・津波と防災 3 火山災害と防災 4 気象災害と防災 | ○ | ○ | ○ | | |
| | | | ○ | ○ | ○ | | |
| | 2 | 5 自然災害への備え 学年末考査4・5年(2/20～2/27) | ○ | ○ | ○ | | |
| | | | ○ | ○ | ○ | | |
| | 3 | 第2章 生活圏の調査と地域の展望 | 1 生活圏の調査と地域の展望 | ○ | ○ | ○ | |
| ○ | | | ○ | ○ | | | |

令和7年度
シラバス

愛媛県立宇和島南中等教育学校(後期課程用)

| | | | | | | | | | | |
|----|------|----|-------|----|----|----|-----|-----|---|----|
| 教科 | 地理歴史 | 科目 | 日本史探究 | 学年 | 5年 | 類型 | 文科系 | 単位数 | 2 | 単位 |
|----|------|----|-------|----|----|----|-----|-----|---|----|

| | | | |
|------|-------|------|-------|
| 教科書名 | 詳説日本史 | 出版社名 | 山川出版社 |
|------|-------|------|-------|

| 学期 | 月 | 指導計画 | | 評価の観点 | | | 授業の概要・学習の到達目標・評価の観点等 |
|------------------|----|----------------------|--|-------|---|---|--|
| | | 単元 | 内容 | 知 | 思 | 主 | |
| 一学期 | 4 | 第1章 日本文化のあけぼの | 1 文化の始まり 2 農耕社会の成立 | ◎ | ◎ | ◎ | <p>授業の概要</p> <p>「歴史総合」で学んだことを基に、我が国の歴史の展開について総合的な理解を深め、各時代の展開に関わる概念等を活用して多面的・多角的に考察し、歴史に見られる課題を把握し、地域や日本、世界の歴史の関わりをふまえ、現代の日本の諸課題とその展望を探究する力を養うことを目指す科目です。</p> <p>学習の到達目標</p> <p>社会的事象の歴史的な見方・考え方を働かせ、課題を追究したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を育成することを旨とする。</p> |
| | | 第2章 古墳とヤマト政権 | 1 古墳文化の展開 2 飛鳥の朝廷 | ◎ | ◎ | ◎ | |
| | 5 | 中間考査(5/13~5/16) | | ◎ | ◎ | ◎ | |
| | | 第3章 律令国家の形成 | 1 律令国家への道 2 平城京の時代 3 律令国家の文化 | ◎ | ◎ | ◎ | |
| | 6 | | | ◎ | ◎ | ◎ | |
| | | 期末考査(6/25~7/1) | | ◎ | ◎ | ◎ | |
| | 7 | | 4 律令国家の変容 | ◎ | ◎ | ◎ | |
| 夏季 | 8 | 夏季休業日(7/19~8/24) | | | | | |
| 二学期 | 9 | 第4章 貴族政治の展開 | 1 摂関政治 2 国風文化 3 地方政治の展開と武士 | ◎ | ◎ | ◎ | <p>評価の観点</p> <p>知識・技能</p> <p>我が国の歴史の展開に関わる諸事象について、地理的条件や世界の歴史と関連付けながら総合的に捉えて理解するとともに、諸資料から我が国の歴史に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けている。</p> <p>思考・判断・表現</p> <p>我が国の歴史の展開に関わる事象の意味や意義、伝統と文化の特色などを、時期や年代、推移、比較、相互の関連や現在とのつながりなどに着目して、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、歴史に見られる課題を把握し解決を視野に入れて構想したりする力や、考察、構想したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりする力を養っている。</p> <p>主体的に学習に取り組む態度</p> <p>我が国の歴史の展開に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に探究しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚、我が国の歴史に対する愛情、他国や他国の文化を尊重することの大切さについての自覚などを深めている。</p> |
| | | 第5章 院政と武士の躍進 | 1 院政のはじまり 2 院政と平氏政権 | ◎ | ◎ | ◎ | |
| | 10 | 中間考査5年(9/30~10/3) | | ◎ | ◎ | ◎ | |
| | | 中間考査4・6年(10/7~10/10) | | ◎ | ◎ | ◎ | |
| | 11 | 第6章 武家政権の成立 | 1 鎌倉幕府の成立 2 武士の社会 3 モンゴル襲来と幕府の衰退 4 鎌倉文化 | ◎ | ◎ | ◎ | |
| | | 期末考査(11/26~12/2) | | ◎ | ◎ | ◎ | |
| | 12 | 第7章 武家社会の成長 | 1 室町幕府の成立 | ◎ | ◎ | ◎ | |
| 冬季休業日(12/20~1/7) | | | | | | | |
| 三学期 | 1 | | 2 幕府の衰退と庶民の台頭 3 室町文化 | ◎ | ◎ | ◎ | <p>評価方法</p> <p>学習の状況は、上記の「知識・技能」、「思考・判断・表現」、「主体的に学習に取り組む態度」の3つの観点に基づき学習内容のまとまりごとに評価します。具体的には、主に「出席」、「授業態度・取り組み方」、「定期考査」、「小テスト」、「課題等提出状況」により評価します。また、学年の成績は、上記の観点から評価した各学期の成績の平均とし、5段階の評定にて総括します。</p> <p>備考</p> |
| | | 学年末考査4・5年(2/20~2/27) | | ◎ | ◎ | ◎ | |
| | 2 | | | ◎ | ◎ | ◎ | |
| | | 3 | 4 戦国大名の登場 | ◎ | ◎ | ◎ | |

令和7年度
シラバス

愛媛県立宇和島南中等教育学校(後期課程用)

| | | | | | | | | | | |
|----|------|----|-------|----|-----|----|-----|-----|---|----|
| 教科 | 地理歴史 | 科目 | 世界史探究 | 学年 | 5 年 | 類型 | 文科系 | 単位数 | 2 | 単位 |
|----|------|----|-------|----|-----|----|-----|-----|---|----|

| | | | |
|------|-------|------|-------|
| 教科書名 | 詳説世界史 | 出版社名 | 山川出版社 |
|------|-------|------|-------|

| 学期 | 月 | 指導計画 | | 評価の観点 | | | 授業の概要・学習の到達目標・評価の観点等 |
|------------------|-----------------------|--------------------------|---------------------------|-------|---|--|--|
| | | 単元 | 内容 | 知 | 思 | 主 | |
| 一 学 期 | 4 | 第1章 文明の成立と古代文明の特質 | 1 文明の誕生 | ◎ | ○ | ○ | 授業の概要 「歴史総合」の学習で身に付けた資質・能力を基に、世界の歴史の大きな枠組みと展開に関わる諸事象について、地理的条件や日本の歴史と関連付けながら理解するとともに、事象の意味や意義、特色などを考察し、よりよい社会の実現を視野に、歴史的経緯を踏まえて、地球世界の課題を探究する科目です。 |
| | | | 2 古代オリエント文明とその周辺 | ○ | ◎ | ○ | |
| | | | 3 南アジアの古代文明 4 中国の古代文明 | ◎ | ○ | ○ | |
| | | | 5 南北アメリカ文明 | ◎ | ○ | ○ | |
| | 5 | 中間考査(5/13~5/16) | | ◎ | ○ | ○ | |
| | 6 | 第2章 中央ユーラシアと東アジア世界 | 1 中央ユーラシア——草原とオアシスの世界 | ◎ | ○ | ○ | |
| | | | 2 秦・漢帝国 3 中国の動乱と変容 | ○ | ◎ | ○ | |
| 4 東アジア文化圏の形成 | | | ◎ | ○ | ○ | | |
| 7 | 第3章 南アジア世界と東南アジア世界の展開 | 1 仏教の成立と南アジアの統一国家 | ◎ | ○ | ○ | | |
| | | 2 インド古典文化とヒンドゥー教の定着 | ○ | ◎ | ○ | | |
| 二 学 期 | 7 | 第4章 西アジアと地中海周辺の国家形成 | 3 東南アジア世界の形成と展開 | ◎ | ○ | ○ | 学習の到達目標 社会的事象の歴史的な見方・考え方を働かせ、課題を追究したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を育成することを目指す。 |
| | | | 1 イラン諸国家の興亡とイラン文明 | ◎ | ○ | ○ | |
| | 8 | 夏季休業日(7/19~8/24) | | | | | |
| | 9 | 第5章 イスラーム教の成立とヨーロッパ世界の形成 | 2 ギリシア人の都市国家 | ○ | ◎ | ○ | |
| | | | 3 ローマと地中海支配 4 キリスト教の成立と発展 | ○ | ◎ | ○ | |
| | | | 1 アラブの大征服とイスラーム政権の成立 | ◎ | ○ | ○ | |
| | 10 | 第6章 イスラーム教の伝播と西アジアの動向 | 2 ヨーロッパ世界の形成 | ○ | ◎ | ○ | |
| 1 イスラーム教の諸地域への伝播 | | | ◎ | ○ | ○ | | |
| 11 | 第7章 ヨーロッパ世界の変容と展開 | 中間考査5年(9/30~10/3) | ◎ | ○ | ○ | | |
| | | 2 西アジアの動向 | ◎ | ○ | ○ | | |
| | | 1 西ヨーロッパの封建社会とその展開 | ◎ | ○ | ○ | | |
| | | 2 東ヨーロッパ世界の展開 | ○ | ◎ | ○ | | |
| 12 | 第8章 東アジア世界の展開とモンゴル帝国 | 3 西ヨーロッパ世界の変容 | ○ | ◎ | ○ | | |
| | | 4 西ヨーロッパの中世文化 | ◎ | ○ | ○ | | |
| 12 | 第9章 大交易・大交流の時代 | 1 アジア諸地域の自立化と宋 | ◎ | ○ | ○ | 思考・判断・表現 世界の歴史の大きな枠組みと展開に関わる事象の意味や意義、特色などを、時期や年代、推移、比較、相互の関連や現代世界とのつながりなどに着目して、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、歴史に見られる課題を把握し解決を視野に入れて構想したりする力や、考察、構想したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりする力を養っている。 | |
| | | 2 モンゴルの大帝国 | ◎ | ○ | ○ | | |
| 冬季 | 1 | 第10章 アジアの諸帝国の繁栄 | 期末考査(11/26~12/2) | ◎ | ○ | ○ | |
| | | | 1 アジア交易世界の興隆 | ◎ | ○ | ○ | |
| 三 学 期 | 2 | 第11章 近世ヨーロッパ世界の動向 | 2 ヨーロッパの海洋進出とアメリカ大陸の変容 | ○ | ◎ | ○ | 評価の方法 学習の状況は、上記の「知識・技能」、「思考・判断・表現」、「主体的に学習に取り組む態度」の3つの観点に基づき学習内容のまとまりごとに評価します。具体的には、主に「出席」、「授業態度・取り組み方」、「定期考査」、「小テスト」、「課題等提出状況」により評価します。また、学年の成績は、上記の観点から評価した各学期の成績の平均とし、5段階の評定にて総括します。 |
| | | | 3 西ヨーロッパ世界の展開 | ◎ | ○ | ○ | |
| | 3 | 学年末考査4・5年(2/20~2/27) | ◎ | ○ | ○ | | |
| | 3 | 第11章 近世ヨーロッパ世界の動向 | 4 オランダ・イギリス・フランスの台頭 | ◎ | ○ | ○ | |
| | | | 5 北欧・東欧の動向 | ◎ | ○ | ○ | |
| 3 | 6 科学革命と啓蒙思想 | ◎ | ○ | ○ | | | |

令和7年度
シラバス

愛媛県立宇和島南中等教育学校(後期課程用)

| | | | | | | | | | | |
|----|----|----|----|----|----|----|-----|-----|---|----|
| 教科 | 公民 | 科目 | 倫理 | 学年 | 5年 | 類型 | 文科系 | 単位数 | 2 | 単位 |
|----|----|----|----|----|----|----|-----|-----|---|----|

| | | | |
|------|----|------|------|
| 教科書名 | 倫理 | 出版社名 | 東京書籍 |
|------|----|------|------|

| 学期 | 月 | 指導計画 | | 評価の観点 | | | 授業の概要・学習の到達目標・評価の観点等 | |
|-----|----|--------------------|---|-----------------|---|---|---|---|
| | | 単元 | 内容 | 知 | 思 | 主 | | |
| 一学期 | 4 | 第1章 青年期の課題と自己形成 | 1節 青年期の意義 | ○ | ◎ | ◎ | <p>授業の概要</p> <p>青年期における自己形成と人間としての在り方生き方について、先人の思想を参考に理解を深めます。日本の思想、西洋の思想をもとに、生きる主体としての自己の確立を促します。それとともに、民主主義社会における諸課題を理解し、どのように対処していけば良いのかを考えさせ、良識ある公民として必要な能力と態度を養います。</p> <p>学習の到達目標</p> <p>・青年期における自己形成の課題について、他者とともに生きる自己の在り方生き方について考えることができる。</p> <p>・先哲の基本的な考え方の理解を手掛かりとして、自己の人格形成に努める実践的態度を育成することができる。</p> <p>・日本の伝統的な人間観、自然観、宗教観などを、自己との関わりの中で理解し、日本人としての在り方生き方の自覚を深めることができる。</p> <p>・現代の倫理的課題や生徒の直面する課題について、先哲の考え方を学びつつ、主体的に課題を解決していくことができる。</p> <p>・人間尊重の精神と生命に対する畏敬の念を涵養し、平和で民主的な社会の実現に寄与することができる。</p> <p>評価の観点</p> <p>知識・技能</p> <p>古今東西の幅広い知的蓄積を通して、倫理にかかわる現代の諸課題を捉え、より深く思索するための手掛かりとなる概念や理論について理解するとともに、諸資料から人間としての在り方生き方に関わる情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けている。</p> <p>思考・判断・表現</p> <p>自立した人間として他者と共によりよく生きる自己の生き方についてより深く思索する力や、現代の倫理的諸課題を解決するために、倫理に関する概念や理論などを活用して、多面的・多角的に考察して思索を深め、合意形成や社会参画を視野に入れながら構想したことを議論できる。</p> <p>主体的に学習に取り組む態度</p> <p>現代社会に生きる人間としての在り方生き方に関わる事象や課題を主体的に解決しようとし、国家及び社会の形成者として、よりよい社会の実現を視野に、より深い思索を通して涵養される人間としての在り方生き方についての自覚を深めている。</p> <p>評価方法</p> <p>学習の状況は、「知識・技能」、「思考・判断・表現」、「主体的に学習に取り組む態度」の3つの観点で評価します。具体的には、主に「出席」、「授業態度・取り組み方」、「討論・発表」、「史資料の読み取り」、「定期考査」、「小テスト」、「提出物(レポートやノート)」、「学習の振り返り」により評価します。また、学年の成績は、上記の観点から評価した各学期の成績の平均とし、5段階法でも評定します。</p> <p>備考</p> | |
| | | | 2節 青年期の課題と生き方 | ◎ | ◎ | ◎ | | |
| | | 5 | 第2章 人間としての自覚 | 1節 人間とは何か | ○ | ○ | | ◎ |
| | | | | 中間考査(5/13~5/16) | ◎ | ◎ | | ○ |
| | 6 | | 2節 ギリシャの思想 | ◎ | ○ | ○ | | |
| | | | 3節 キリスト教 | ◎ | ○ | ○ | | |
| | | | 4節 イスラーム | ◎ | ○ | ○ | | |
| | | | 5節 仏教 | ◎ | ○ | ○ | | |
| | | | 6節 中国の思想 | ◎ | ◎ | ○ | | |
| | | | 期末考査(6/25~7/1) | ◎ | ◎ | ○ | | |
| | 7 | | 7節 芸術と人間 | ○ | ○ | ◎ | | |
| | | | 夏季休業日(7/19~8/24) | | | | | |
| 二学期 | 9 | 第3章 国際社会に生きる日本人の自覚 | 1節 日本人の精神風土 | ○ | ◎ | ◎ | | |
| | | | 2節 仏教と日本人の思想形成 | ◎ | ◎ | ○ | | |
| | | | 3節 儒教と日本人の思想形成 | ◎ | ○ | ○ | | |
| | | | 中間考査5年(9/30~10/3) | ◎ | ◎ | ○ | | |
| | 10 | | 4節 国学の思想 | ◎ | ◎ | ○ | | |
| | | | 5節 庶民の思想 | ◎ | ◎ | ○ | | |
| | | | 6節 西洋思想と日本人の近代化 | ◎ | ◎ | ○ | | |
| | | | 7節 国際社会に生きる日本人の自覚 | ○ | ◎ | ◎ | | |
| | 11 | 第4章 現代を生きる人間の倫理 | 1節 人間の尊厳の根拠を求めて | ◎ | ◎ | ○ | | |
| | | | 期末考査(11/26~12/2) | ◎ | ◎ | ○ | | |
| | | | 2節 民主社会と自由を求めて | ◎ | ○ | ◎ | | |
| | | | 冬季休業日(12/20~1/7) | | | | | |
| 三学期 | 1 | | 3節 社会変革の倫理を求めて | ◎ | ○ | ◎ | | |
| | | | 4節 新たな人間像を求めて | ◎ | ○ | ◎ | | |
| | | | 5節 自然や科学技術と人間のかかわり | ○ | ◎ | ◎ | | |
| | 2 | | 6節 民主社会の成熟のために | ○ | ◎ | ◎ | | |
| | | | 学年末考査4・5年(2/20~2/27) | ◎ | ◎ | ○ | | |
| | 3 | 第5章 現代の課題を考える | 1節 生命 2節 家族 | ○ | ◎ | ◎ | | |
| | | | 3節 地域社会 4節 情報社会 5節 文化と宗教 6節 環境 7節 国際平和と人類の福祉 | ○ | ◎ | ◎ | | |

令和7年度
シラバス

愛媛県立宇和島南中等教育学校(後期課程用)

| | | | | | | | | | | |
|----|------|----|------|----|----|----|-----|-----|---|----|
| 教科 | 地理歴史 | 科目 | 地理探究 | 学年 | 6年 | 類型 | 理科系 | 単位数 | 4 | 単位 |
|----|------|----|------|----|----|----|-----|-----|---|----|

| | | | |
|------|------------------|------|--------------|
| 教科書名 | 新詳 地理探究 高等地図帳 | 出版社名 | 帝国書院 二宮書店 |
|------|------------------|------|--------------|

| 学期 | 月 | 指導計画 | | 評価の観点 | | | 授業の概要・学習の到達目標・評価の観点等 | |
|---|-------------|-------------------------|---|---|---|----|---|--|
| | | 単元 | 内容 | 知 | 思 | 主 | | |
| 一 学 期 | 4 | 第1部 現代世界の系統地理的考察 | 序説 地球環境と人間 1節 地形 | ◎ | ◎ | ○ | 授業の概要 地理総合の学びをもとに、社会的事象の地理的な見方・考え方を働かせ、課題を追究したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を育成します。 | |
| | | 第1章 自然環境 | 2節 気候 3節 日本の自然環境 | ◎ | ◎ | ○ | | |
| | | 第2章 資源と産業 | 4節 地球環境問題 1節 農林水産業 2節 食糧問題 3節 エネルギー・鉱産資源 4節 資源・エネルギー問題 5節 工業 6節 第3次産業 | ◎ | ◎ | ◎ | | |
| | | 中間考査(5/13~5/16) | | ◎ | ◎ | ○ | | |
| | 5 | 第3章 交通・通信と観光、貿易 | 1節 交通・通信 2節 観光 3節 貿易と経済圏 | ◎ | ◎ | ◎ | | |
| | | 第4章 人口、村落・都市 | 1節 人口 2節 人口問題 3節 村落と都市 4節 都市・居住問題 | ◎ | ◎ | ◎ | | |
| | | 第5章 生活文化、民族・宗教 | 1節 衣食住 2節 民族・宗教と民族問題 3節 国家の領域と領土問題 | ◎ | ◎ | ◎ | | |
| | 6 | 期末考査(6/25~7/1) | | ◎ | ◎ | ○ | | 学習の到達目標 ・地理に関わる諸事象に関して、世界の空間的な諸事象の規則性、傾向性や、世界の諸地域の地域的特色や課題などを理解するとともに、地図や地理情報システムなどを用いて、調査や諸資料から地理に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付ける。 ・地理に関わる事象の意味や意義、特色や相互の関連を、位置や分布、場所、人間と自然環境との相互依存関係、空間的相互依存作用、地域などに着目して、系統地理的、地誌的に、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、地理的な課題の解決に向けて構想したりする力や、考察、構想したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりする力を養う。 |
| | | 第2部 現代世界の地誌的考察 | 1節 地域区分 | ◎ | ◎ | ○ | | |
| | | 第1章 現代世界の地域区分 | 序説 地域の考察方法 | ◎ | ◎ | ○ | | |
| | | 夏季休業日(7/19~8/24) | | | | | | |
| | 二 学 期 | 9 | 第2章 現代世界の諸地域 | 1節 中国 2節 韓国 3節 ASEAN諸国 4節 インド 5節 西アジアと中央アジア | ◎ | ◎ | | ○ |
| 中間考査5年(9/30~10/3) | | | | ◎ | ◎ | ○ | | |
| 中間考査4・6年(10/7~10/10) | | | | ◎ | ◎ | ○ | | |
| 6節 北アフリカとサハラ以南アフリカ 7節 EU諸国 8節 ロシア 9節 アメリカ合衆国 10節 ラテンアメリカ | | | ◎ | ◎ | ○ | | | |
| 11節 オーストラリアとニュージーランド | | | ◎ | ◎ | ○ | | | |
| 10 | | 第3部 現代世界におけるこれからの日本の国土像 | 11節 オーストラリアとニュージーランド | ◎ | ◎ | ○ | | |
| | | 第1章 持続可能な国土像の探究 | 1節 将来の国土の在り方 2節 持続可能な日本の国土像の探究 | ◎ | ◎ | ○ | | |
| | | 期末考査(11/26~12/2) | | ◎ | ◎ | ○ | | |
| 11 | | 演習 | | ◎ | ◎ | ○ | 主体的に学習に取り組む態度 地理に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に探究しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚、我が国の国土に対する愛情、多様な生活文化を尊重しようとする大切さについて自覚している。 | |
| | | 冬季休業日(12/20~1/7) | | | | | | |
| 三 学 期 | 1 | 家庭学習 | | ◎ | ◎ | ○ | 評価方法 学習の状況は、「知識・技能」、「思考・判断・表現」、「主体的に学習に取り組む態度」の3つの観点で評価します。具体的には、主に「出席」、「授業態度・取り組み方」、「定期考査」、「課題プリント(小テスト等)」、「提出物(ノートや問題集)」により評価します。また、学年の成績は、上記の観点から評価した各学期の成績の平均とし、5段階法でも評価します。 | |
| | | | | ◎ | ◎ | ○ | | |
| | | | | ◎ | ◎ | ○ | | |
| 2 | | | ◎ | ◎ | ○ | 備考 | | |
| | | | ◎ | ◎ | ○ | | | |
| 3 | | | ◎ | ◎ | ○ | | | |

令和7年度
シラバス

愛媛県立宇和島南中等教育学校(後期課程用)

| | | | | | | | | | | |
|----|------|----|-------|----|----|----|-----|-----|---|----|
| 教科 | 地理歴史 | 科目 | 日本史探究 | 学年 | 6年 | 類型 | 文科系 | 単位数 | 4 | 単位 |
|----|------|----|-------|----|----|----|-----|-----|---|----|

| | | | |
|------|-------|------|-------|
| 教科書名 | 詳説日本史 | 出版社名 | 山川出版社 |
|------|-------|------|-------|

| 学期 | 月 | 指導計画 | | 評価の観点 | | | 授業の概要・学習の到達目標・評価の観点等 | | |
|-------------------|------------------|----------------------|--|------------------------------|---|---|---|---|--|
| | | 単元 | 内容 | 知 | 思 | 主 | | | |
| 一学期 | 4 | 第8章 近世の幕開け | 1 織豊政権 2 桃山文化 | ◎ | ◎ | ○ | 授業の概要 「歴史総合」で学んだことを基に、我が国の歴史の展開について総合的な理解を深め、各時代の展開に関わる概念等を活用して多面的・多角的に考察し、歴史に見られる課題を把握し、地域や日本、世界の歴史の関わりをふまえ、現代の日本の諸課題とその展望を探究する力を養うことを目指す科目です。 学習の到達目標 社会的事象の歴史的な見方・考え方を働かせ、課題を追究したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を育成することを目指す。 | | |
| | | 第9章 幕藩体制の成立と展開 | 1 幕藩体制の成立 2 幕藩体制の構造 3 幕政の安定 4 経済の発展 5 元禄文化 | ◎ | ◎ | ○ | | | |
| | | 第10章 幕藩体制の動揺 | 1 幕政の改革 2 宝暦・天明期の文化 | ◎ | ◎ | ○ | | | |
| | | 中間考査(5/13～5/16) | | ◎ | ◎ | ○ | | | |
| | 5 | 第11章 近世から近代へ | 3 幕府の衰退と近代への道 4 化政文化 1 開国と幕末の動乱 2 幕府の滅亡と新政府の発足 | ◎ | ◎ | ○ | | | |
| | | 第12章 近代国家の成立 | 1 明治維新と富国強兵 | ◎ | ◎ | ○ | | | |
| | | 期末考査(6/25～7/1) | | ◎ | ◎ | ○ | | | |
| | | 第13章 近代国家の展開 | 2 立憲国家の成立 1 日清・日露戦争と国際関係 | ◎ | ◎ | ○ | | | |
| | 7 | 夏季休業日(7/19～8/24) | | | | | | | |
| | | 第14章 近代の産業と生活 | 2 第一次世界大戦と日本 3 ワシントン体制 1 近代産業の発展 2 近代文化の発達 3 市民生活の変容と大衆文化 | ◎ | ◎ | ○ | | | |
| | 二学期 | 9 | 第15章 恐慌と第二次世界大戦 | 1 恐慌の時代 2 軍部の台頭 3 第二次世界大戦 | ◎ | ◎ | | ○ | 評価の観点 知識・技能 |
| | | | 第16章 占領下の日本 | 1 占領と改革 | ◎ | ◎ | | ○ | 我が国の歴史の展開に関わる諸事象について、地理的条件や世界の歴史と関連付けながら総合的に捉えて理解するとともに、諸資料から我が国の歴史に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けている。 |
| 中間考査5年(9/30～10/3) | | | | ◎ | ◎ | ○ | | | |
| 10 | | 中間考査4・6年(10/7～10/10) | | ◎ | ◎ | ○ | | | |
| | | 第17章 高度成長の時代 | 2 冷戦の開始と講話 1 55年体制 2 経済復興から高度経済成長へ | ◎ | ◎ | ○ | 思考・判断・表現 | | |
| | | 第18章 激動する世界と日本 | 1 経済大国への道 2 冷戦の終結と日本社会の変容 | ◎ | ◎ | ○ | 我が国の歴史の展開に関わる事象の意味や意義、伝統と文化の特色などを、時期や年代、推移、比較、相互の関連や現在とのつながりなどに着目して、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、歴史に見られる課題を把握し解決を視野に入れて構想したりする力や、考察、構想したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりする力を養っている。 | | |
| 11 | | 現代日本の課題の探求 | 様々な災害と日本 | ◎ | ◎ | ○ | 主体的に学習に取り組む態度 | | |
| | | 期末考査(11/26～12/2) | | ◎ | ◎ | ○ | 我が国の歴史の展開に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に探究しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚、我が国の歴史に対する愛情、他国や他国の文化を尊重することの大切さについての自覚などを深めている。 | | |
| | | 問題演習 | | ◎ | ◎ | | | | |
| | | '' | | ◎ | ◎ | | | | |
| 冬季 | 冬季休業日(12/20～1/7) | | | | | | | | |
| | '' | | ◎ | ◎ | | 評価方法 | | | |
| 三学期 | 1 | '' | | ◎ | ◎ | 学習の状況は、上記の「知識・技能」、「思考・判断・表現」、「主体的に学習に取り組む態度」の3つの観点に基づき学習内容のまとまりごとに評価します。具体的には、主に「出席」、「授業態度・取り組み方」、「定期考査」、「小テスト」、「課題等提出状況」により評価します。また、学年の成績は、上記の観点から評価した各学期の成績の平均とし、5段階の評定にて総括します。 | | | |
| | | '' | | ◎ | ◎ | | | | |
| | | '' | | ◎ | ◎ | | | | |
| | 2 | 家庭学習 | | ◎ | ◎ | | | | |
| | | '' | | ◎ | ◎ | | | | |
| 3 | '' | | ◎ | ◎ | | 備考 | | | |

令和7年度
シラバス

愛媛県立宇和島南中等教育学校(後期課程用)

| | | | | | | | | | | |
|----|------|----|-------|----|----|----|-----|-----|---|----|
| 教科 | 地理歴史 | 科目 | 世界史探究 | 学年 | 6年 | 類型 | 文科系 | 単位数 | 4 | 単位 |
|----|------|----|-------|----|----|----|-----|-----|---|----|

| | | | |
|------|-------|------|-------|
| 教科書名 | 詳説世界史 | 出版社名 | 山川出版社 |
|------|-------|------|-------|

| 学期 | 月 | 指導計画 | | 評価の観点 | | | 授業の概要・学習の到達目標・評価の観点等 |
|------------------|-----|--|---|--|---|---|--|
| | | 単元 | 内容 | 知 | 思 | 主 | |
| 一学期 | 4 | 第12章 産業革命と環大西洋革命 | 1 産業革命 2 アメリカ合衆国の独立と発展 3 フランス革命とナポレオンの支配 4 中南米諸国の独立 | ○ | ◎ | ○ | 授業の概要 「歴史総合」の学習で身に付けた資質・能力を基に、世界の歴史の大きな枠組みと展開に関わる諸事象について、地理的条件や日本の歴史と関連付けながら理解するとともに、事象の意味や意義、特色などを考察し、よりよい社会の実現を視野に、歴史的経緯を踏まえて、地球世界の課題を探究する科目です。 |
| | | 第13章 イギリスの優位と欧米国民国家の形成 | 1 ウィーン体制とヨーロッパの政治・社会の変動 2 列強体制の動揺とヨーロッパの再編成 | ○ | ◎ | ○ | |
| | 5 | 中間考査(5/13~5/16) | | ◎ | ◎ | ○ | |
| | 6 | 第14章 アジア諸地域の動揺 | 3 アメリカ合衆国の発展 4 19世紀欧米文化の展開と市民文化の繁栄 1 西アジア地域の変容 2 南アジア・東南アジアの植民地化 3 東アジアの激動 | ◎ | ○ | ○ | |
| | | 第15章 帝国主義とアジアの民族運動 | 1 第2次産業革命と帝国主義 2 列強の世界分割と列強体制の二分化 | ○ | ◎ | ○ | |
| | | 期末考査(6/25~7/1) | | ◎ | ◎ | ○ | |
| | 7 | 第16章 第一次世界大戦と世界の変容 | 3 アジア諸国の変革と民族運動 1 第一次世界大戦とロシア革命 2 ヴェルサイユ体制下の欧米諸国 | ◎ | ○ | ○ | |
| 夏季 | 8 | 夏季休業日(7/19~8/24) | | | | | |
| | 二学期 | 9 | 第17章 第二次世界大戦と新しい国際秩序の形成 | 3 アジア・アフリカ地域の民族運動 1 世界恐慌とヴェルサイユ体制の破壊 2 第二次世界大戦 3 新しい国際秩序の形成 | ◎ | ○ | ○ |
| 第18章 冷戦と第三世界の台頭 | | 1 冷戦の展開 | ◎ | ◎ | ○ | | |
| 10 | | 中間考査5年(9/30~10/3) 中間考査4・6年(10/7~10/10) | | ◎ | ◎ | ○ | |
| 第19章 冷戦の終結と今日の世界 | | 2 第三世界の台頭とキューバ危機 3 冷戦体制の動揺 1 産業構造の変容 2 冷戦の終結 3 今日の世界 4 現代文明の諸相 地球世界の課題の探究 | ◎ | ◎ | ○ | | |
| 11 | | 期末考査(11/26~12/2) | | ◎ | ◎ | ○ | |
| 冬季 | 12 | 問題演習 | 問題演習 | ◎ | ◎ | ○ | |
| | 12 | 冬季休業日(12/20~1/7) | | ◎ | ◎ | ○ | |
| 三学期 | 1 | | '' | ◎ | ◎ | ○ | 評価の方法 学習の状況は、上記の「知識・技能」、「思考・判断・表現」、「主体的に学習に取り組む態度」の3つの観点に基づき学習内容のまとまりごとに評価します。具体的には、主に「出席」、「授業態度・取り組み方」、「定期考査」、「小テスト」、「課題等提出状況」により評価します。また、学年の成績は、上記の観点から評価した各学期の成績の平均とし、5段階の評定にて総括します。 |
| | 2 | 家庭学習 | '' | ◎ | ◎ | ○ | |
| | 3 | | '' | ◎ | ◎ | ○ | |
| | | | | | | | 備考 |

令和7年度
シラバス

愛媛県立宇和島南中等教育学校(後期課程用)

| | | | | | | | | | | |
|----|----|----|-------|----|----|----|-----|-----|---|----|
| 教科 | 公民 | 科目 | 政治・経済 | 学年 | 6年 | 類型 | 文科系 | 単位数 | 2 | 単位 |
|----|----|----|-------|----|----|----|-----|-----|---|----|

| | | | |
|------|----------|------|------|
| 教科書名 | 詳述 政治・経済 | 出版社名 | 実教出版 |
|------|----------|------|------|

| 学期 | 月 | 指導計画 | | 評価の観点 | | | 授業の概要・学習の到達目標・評価の観点等 |
|-------------|------------------|--|---|-------|---|--|---|
| | | 単元 | 内容 | 知 | 思 | 主 | |
| 一 学 期 | 4 | 第一部 現代日本における政治・経済の諸課題 | 1 政治と法 2 民主政治と人権保障の発展 3 国民主権と民主政治の発展 | ○ | ◎ | ○ | 授 業 の 概 要 民主主義社会における諸課題を理解し、どのように対処していけば良いのかを考え、良識ある公民として必要な能力と態度を養います。 |
| | | 第1編 現代日本の政治 | 4 世界の政治体制 | ○ | ◎ | ○ | |
| | | 第1章 民主政治の基本原則 | 1 日本国憲法の成立 2 平和主義 | ○ | ◎ | ○ | |
| | | 第2章 日本国憲法の基本的性格 | 3 基本的人権の尊重 4 人権の広がり | ○ | ◎ | ○ | |
| | 5 | 中間考査(5/13~5/16) | | ◎ | ◎ | ◎ | |
| | | 第3章 日本の政治機構 | 1 立法 2 行政 2 行政 3 司法 4 地方自治 | ○ | ◎ | ○ | |
| | | 第4章 現代日本の政治 | 1 戦後政治の歩み | ○ | ◎ | ○ | |
| 7 | 期末考査(6/25~7/1) | | ◎ | ◎ | ◎ | 学 習 の 到 達 目 標 広い視野に立って、民主主義の本質に関する理解を深めさせ、現代における政治、経済、国際関係などについて客観的に理解させるとともに、それらに関する諸課題について主体的に考察させ、公正な判断力を養い、良識ある公民として必要な能力と態度を育てる。 | |
| | | 2 選挙制度 3 政治参加と世論 | ○ | ◎ | ○ | | |
| 夏 季 | 8 | 夏季休業日(7/19~8/24) | | | | | |
| 二 学 期 | 9 | 第2編 現代日本の経済 | 1 経済活動の意義 2 経済社会の形成と変容 | ○ | ◎ | ○ | 評 価 の 観 点 知識・技能 考察・選択・判断するための手掛かりとなる概念や理論について理解している。また、諸資料から、必要な情報を調べまとめている。 |
| | | 第1章 現代社会の変容 | 1 市場機構 | ○ | ◎ | ○ | |
| | | 第2章 現代経済のしくみ | 2 現代の企業 3 国民所得と経済成長 4 金融のしくみ 5 財政のしくみ | ○ | ◎ | ○ | |
| | | 第3章 現代経済と福祉の向上 | 1 経済の停滞と再生 2 日本の中小企業と農業 | ○ | ◎ | ○ | |
| | 10 | 中間考査5年(9/30~10/3) | 3 国民のくらし 4 環境保全と公害防止 | ○ | ◎ | ○ | |
| | | 中間考査4・6年(10/7~10/10) | | ◎ | ◎ | ◎ | |
| | 11 | 第3編 現代日本における諸課題の探究 | 5 労使関係と労働条件の改善 6 社会保障の役割 1 地域社会の自立と政府 2 防災と安全・安心な社会の実現 | ○ | ◎ | ◎ | 思 考 ・ 判 断 ・ 表 現 現実社会の諸課題の解決に向けて、事実を基に多面的・多角的に考察し、公正に判断し、構想したことを議論している。 |
| | | 第2部 グローバル化する国際社会の諸課題 | 1 国際政治の特質と国際法 2 国際連合と国際協力 3 現代国際政治の動向 4 核兵器と軍縮 | ○ | ◎ | ○ | |
| | | 第1章 現代の国際政治 | 5 国際紛争と難民 6 国際政治と日本 | ○ | ◎ | ○ | |
| | | 第2章 現代の国際経済 | 1 商品・資本の流れと国際収支 2 国際経済体制の変化 | ○ | ◎ | ○ | |
| 12 | 期末考査(11/26~12/2) | | ◎ | ◎ | ◎ | 主 体 的 に 学 習 に 取 り 組 む 態 度 よりよい社会の実現のために、現代の政治や経済について多面的・多角的に考察し、考えたことを社会生活に生かそうとしている。 | |
| | | 3 グローバル化と世界金融 4 地域経済統合と新興国の台頭 5 地球環境とエネルギー 6 経済協力と人間開発の課題 | ○ | ◎ | ○ | | |
| 冬 季 | | 冬季休業日(12/20~1/7) | | | | | |
| 三 学 期 | 1 | 第3章 国際社会の諸課題の探究 | 1 紛争の解決に向けた国際社会の取組など 演習 | ○ | ◎ | ◎ | 評 価 方 法 学習の状況は、「知識・技能」、「思考・判断・表現」、「主体的に学習に取り組む態度」の3つの観点で評価します。具体的には、主に「出席」、「授業態度・取り組み方」、「定期考査」、「小テスト等」、「提出物(レポートやノート)」により評価します。また、学年の成績は、上記の観点から評価した各学期の成績の平均とし、5段階法でも評価します。 |
| | | | 家庭学習 | ○ | ○ | ○ | |
| | 2 | | | ○ | ○ | ○ | |
| | 3 | | | ○ | ○ | ○ | 備 考 |